

私たちは、
なぜ、生まれて
きたのでしょうか？

Q
&
A

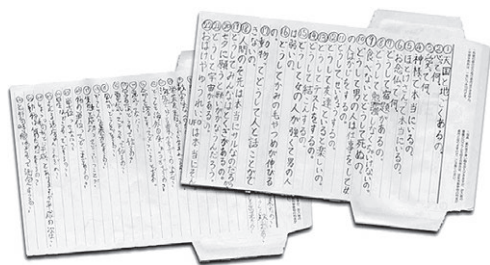
UTAブック

■はじめに

昨年、出版に関わらせていただいた本に「僕の子、私の子——わたしたちは『なぜ』生まれてきたの?」という出版物があります。たくさんの子もたちとは言えませんが、北海道、岐阜、大阪に住む七人の子もたちに協力してもらい、自分の中に眠っている「なぜ」を掘り起こし、それを手紙に書き出してもらいました。

そのなかに、複数の子どもが共通して掲^かげている二つの「なぜ」がありました。

一つは、「学校では「みんな一緒に仲良く」と言っているのに、な



ぜ戦争は起きるのですか？」というものです。

我が出版社のホームページ冒頭にも、次のような「なぜ」を掲^かげています。
争^{あらそ}うことがいけないことは誰もが知っています。

誰もが知っているのに、世界から「戦争」はなくなりません。

なぜでしょうか？

まず「世界」や「戦争」のことを考える前に、自分の身のまわりを考えてみましょう。

あなたの心の中を覗^{のぞ}いてみてください。

あなたは会社で自分の部下、同僚、上司と争っていないでしょうか？

また家庭を考えればどうでしょう？ あなたが主婦ならご主人や舅^{しゅうと}や姑^{こめ}と、旦那さんの立場なら奥さんや家族と争っていませんか？

外面は幸せそうに暮らしていても、心の中はどうでしょうか？

あなたは、毎日を「幸せに豊かに暮らしている」と、胸を張って言えるでしょうか？

どうやら戦争の火種は「外」にあるのではなく、自分の「内」にあるようです。それをたくさんの人が気付かずに、「外」に原因を求め、「外を変えれば、すべてがよくなる」と錯覚して動き回っている。まさに「灯台もと暗し」を絵に描いたような状態が、私たちの心の状態であり、それは取りも直さず、今の社会、今の世界の状態と言えるのではないのでしょうか。

からだ身体が悪いところは、病院へ行けば、医師が見つけてくれます。でも、自分の心の中の「欠陥」や「ゆがみ」は、自分が見ようとしなにかぎり、誰も見つけてはくれません。それどころか、みんながみんな、「自分は正しい」「間違っているのはまわりの誰か」で、決して「自分」が原因と考えようとしないのが、我々の心のあり方です。

「すべての原因は自分にある」と考え、「外を変えようとするのではなく、自分を見つめ、いやな自分が見えてきたら、そのいやな自分を受け入れていく。その『意識の転回』なくしては

何も変わらない、その単純な真実を多くの人に知ってもらい、本当に幸せな生活を送ってほしい」というのが、私達「UTAブック」の出版理念であり、このことを多くの人に知ってもらうため、UTAブックは出版活動を続けています。

ここでは「戦争は、なぜなくならないか」、その切り口から、自分の心と向かい合うということを提唱しています。

子どもたちの「なぜ」のなかで、もうひとつ大きな「なぜ」が、「私達はなぜ生まれてきたの?」という疑問です。

人間にとって永遠の命題ともいえる大問題です。

先の太平洋戦争という現実の中で、この問題に直面し、終戦後、自分の心と向き合うとい

う「心の学び」を提唱された、大阪のある府立高校の校長先生がいます。

まずは、この田池留吉先生について紹介させてください。

「先生」という敬称は、今も言いましたように、かつて大阪府立高校の校長先生をしておられたため、教職を退しりぞかれた今も、いつしかこの敬称が定着してしまいました。決して特別視したり、教祖扱いして、このような呼び方をしているわけではありません。

戦争中、田池先生は、陸軍士官学校で、特攻隊として部下と共に死んでいくという環境の中にありました。「死とは何か」「生とは何か」という問題に直面した田池先生は、終戦後の昭和二十三年、数学の教師となりました。授業時間のほとんどは「心」や「愛」の話であったと言います。その頃、先生の教えを受けた人の話によると、教室にはいつも「自然に従い、真実を愛し、純粹なる魂たましいの感動するままだに、自己と自己以外のすべての人々に愛をつくさん」の文字が掲かかげられてあったそうです。

万事が順調に進む中、あるとき、先生は、心の中から一つの言葉を聞きました。

「あなたが語る言葉は天使の言葉だが、あなたの心は真つ暗ではないのですか」と……。

このとき田池先生は自分が何も分かっていなかったことに気付きました。

「愛」^{あふ}溢れる自分だと思っていたのが、なんにもない、空^{から}っぽの自分だったということを

知らされたのです。では「本当の愛とは?」「自分の生まれてきた目的とは?」……そんな

暗中模索^{あんちゅうもさく}の中、行き着いた結論が「母親の反省」でした。先生は、数学の教師という仕事から、

自分が学生に数学の問題を出すときは、必ず答えに導くようなヒントを出している。

自分が抱^{かか}えている、この「本当の愛とは?」「生まれてきた目的は?」、この大きな問題に

ついても、誰かがヒントを出してくれているに違いない。そう考えました。

そうして行き着いたのが、お母さんという存在だったのです。

母親に対して出してきた思いを見つめていく中で、自分が一番バカにしてきた母親が、自

分に「愛」ということを教えてくれていたことに気付いたのです。

何か形が間違っていたというのではなく、自分の心が、形の世界、肉の世界に向いていて、本当のことを見失っていた。そのことが間違いだったことに気付きました。

それからというもの、「心の世界こそがすべて」「肉を基盤とした生活から、心を基盤とした生活へ」、「外に答えを求めるのではなく、自分の中にすべての答えがある」。そして、このことは「母親の反省」を通して「心で体験できる」のだということを多くの方に話してこられました。

たくさんの方が、話を聞きに来られました。子供のことで悩んでおられる方、病気のこと
で悩んでおられる方、自分という存在について考えておられる方、人の身体からだを扱う治療士の方、人の心を扱う心理療法士の方、大学の先生もおられればサラリーマンもいる、主婦もいる……。そんな人たちが、毎日曜日になると、場所を提供してくれる人の家に集まり、先生

の話に耳を傾けたのです。かたむ。それがこの学びの始まりでした。

こうして先生は、自分の本当の仕事に気付かれ、心の中の思いに従い、高校の校長職を辞められ、「心の世界こそがすべて」「私達の中にこそ、すべての答えがある」ということを伝えられるようになったのです。

では、心を見るときはどういうことでしょうか？

普段、私達は、見たもの、聞いたもの……いわゆる五官で感じた外の情報をもとに生きています。それをちよつとストップして「自分の心の中を見よう」というのがこの学びです。

外を見ているかぎり、どうしても人は、自分以外の何かに原因を求めがちです。たとえば「社会が悪い」「教育が悪い」「夫が悪い」「妻が悪い」「子供が悪い」「姑しゅうとめが悪い」「あの人が変われば」……となるわけですが、まわりに原因を求め、それを変えようとしても何も変わらないのが現実です。

というのも、外に見えてくる歪み、ひずみは、実は自分の中にあるものだからです。そこで他人や社会を変えようとするのではなく、自分を見つめて、そのことに心で気付いていこう、自分の生まれてきた本当の目的に気付いていこうというのが、この学びの目指すところです。そのために、① 知識 ② 反省 ③ 瞑想という三つの仕組みが、この学びでは提唱されています。

まず「知識」ですが、この学びを自分の長年培ってきた常識や経験で分かろうとすると混乱が起きます。

例えば「人間は肉体ではなく意識である」とか、「神は拝むものではない。自分の内なる意識、本当の自分をこそ信じていく」とか、「苦しみは愛である」「あるいは「天変地異は愛である」等々、知識の面から見ても、世間の常識とは全く違ったところがほとんどです。まずは今まで培ってきた知識や経験を忘れて、白紙の状態で、この学びを理解していただければと思います。

次に「反省」についてですが、ここで言う反省とは、世間で言うような「反省」ではなく、「自分の心を見る」ということです。仕事の中で、生活の中で、心は常に動いています。その動く心を見つめることを反省と言っています。この反省には、今、申し上げた「日々の心を見つめる反省」のほか、もっと根本的な「母親の反省」と「他力の反省」があります。

最後が「瞑想」です。瞑想には、「母を思う瞑想」、心を「田池留吉（本当の自分）に合わせる瞑想」と、「自分の闇をさらけ出す」瞑想とがあります。自分の心が、ぴたり合ったなら、それがすべてです。その時は、喜びと感謝しかありません。言い換えれば、本当の自分の心から外れた分だけ、苦しみが生じるということです。その苦しみを瞑想の中で解放し、自分がどれほどの闇を抱えてきたかを実感していくことを「闇出し瞑想」と呼んでいます。

知識については、弊社から出版している以下の本を参考にしてください。

1. 増補改訂版「意識の流れ」二〇一〇年五月一〇日
2. 「愛、自分の中の自分―意識の転回 ver・3―」二〇一五年六月二〇日
3. 「続意識の流れ―最後は瞑想です正しい瞑想をしましょう―」二〇一六年十二月一〇日

1. この学びについて

では、いよいよ本論です。

ここでは学びを進めていく、もしくは学びをはじめるにあたっての疑問点を、Q & A方式で、先に紹介した本の著者である塩川香世さんにご協力いただき、意識の世界からあなたへのメッセージとして答えていただくようにしています。

■ なぜ、セミナーを開催する必要があるのですか？

世の中には情報が溢あふれています。しかし、その溢れる情報の中でどれだけあなたに真実を届けてくれるものがあるのでしょうか。私は皆無かいむだと思っています。そうです、皆無です。ゼロです。本当に色々な情報が飛び交かっています。今はインターネットの時代です。何か知りたいこと、探さがしたいことがあれば、ネットの中で色々なことを知り得ます。その手に入れた情報を元に、私達は日常生活を送っています。そういうことは、生活をしていくというところでは有効であり便利でしょう。しかし、本当のこと、真実の世界からすれば、どうでもいいことばかりなんです。そのことをまずは、あなたの頭で知っていたきたいんです。知っていたくために、皆さんが、ある一定の場所に集まって、ある一定の時間は日常から離れて、本当のこと

はこうなんですよと、まず頭で理解しましょうということです。そのための時間と空間が必要であつて、それがたとえば、二泊三日のセミナー開催という形になりました。

それでは、宿泊をせずに、一日、どこかに集まって学び、ある程度の時間が経^たてば各自家路につき、日々の生活に戻るというのではだめなんでしょうか。残念ながら、それではなかなかスムーズに頭の切り替えができないでしょう。まずは頭の切り替えです。日常生活から、少なくとも二、三日離れて、そして本当の世界はこうな^んですよと、まずあなたの頭を切り替えていただき、それから、あなたの目を通して、耳を通して、そして身体全体^{からだ}で、色々なことをセミナーの場で感じ学んでいくのです。そういう時間と空間の必要性から、セミナーが開催されてきたということです。

■ なぜ、今世、日本の国でセミナーが開催されたのですか？

それは真実の世界が、肉という形を持って日本の国に生まれてきたからです。では、なぜ真実の世界が、この小さな島国、日本に肉という形を持ってきたのでしょうか。それは、今、セミナーではつきりと申しています通り、アマテラスの供養にあります。アマテラスとは闇黒の宇宙あんこくを指しますが、それぞれの心に広げてきた闇黒の宇宙アマテラスを、温かな安らぎに、愛の方向にいざなっていくるように成長していくために、この日本の国に、田池留吉という意識の世界が肉という形を持ってきたんです。もともと、田池留吉の意識の世界というのは、真実の世界ですから、三次元で肉という形を持つ必要はありませんでした。その一方で、私達は形の世界を本物として長い間転生てんしょうを繰り返してきました。その私達に真実を伝えるためには、まず、私達

と同じ肉という形を持って、私達の目の前に現れてということが必要でした。結果、私達は自分の目を通し耳を通し学ばせていただきました。その肉から色々なことを伝えていただきました。まさにそれは、真実の世界に、私達がなるべくすうっと入っていけるような環境づくりです。私達と同じ次元で形を持つということが大きな役目を果たしました。

真実の意識の世界は、この地球上の国々の中で、日本の国を選びました。選んだというよりも、それが意識の流れだったのです。意識の流れからのメッセージは次元移行を伝えます。次元移行とは、ともに次元を超えていくということです。そのためには、闇黒の宇宙を母なる宇宙へ、その波動の世界を転回していかなければなりません。まずはアマテラスです。闇黒の宇宙のひとつであるアマテラスです。その一角を崩していくという大きな大きな仕事があります。そのために、この島国

日本、アマテラスの国日本、神国^{しんこく}日本に、真実の世界が肉という形を持ってセミナーを三〇年余り開催していただいたという経緯があります。

■ かつては全国各地でセミナーが開かれていたと聞きました。

今は一部の地域でしか開かれないのはなぜですか？

そして、なぜ、志摩という土地になったのですか？

かつては全国各地でセミナーが開かれていました。日本だけではなくて、アメリカでもセミナーがありました、そして今は、一部の地域、関西でしかセミナーはありません。

せん。大阪を中心として、滋賀県、三重県、奈良県の各県でセミナーが行われていきます。その他に地域の人達が学ぶ場は、それぞれ各地に小規模ではありますが、セミナーが開催されているのは、UTAホール大宝、UTAホール志摩があります。いずれも大阪と三重です。関西に偏^{かたよ}っています。それはなぜなのでしょう。全国各地で開催されてきたセミナーがなぜ関西に集約されているのでしょうか。

それは、学びの進化ということが挙げ^あられます。最初は、セミナーを通して教えるを広めるというわけではないんですけれど、全国各地に本当のことが知りたい人達、自分はなぜ生まれてきたのかとか、自分の今の苦しみは何なのかという疑問を持っている人達がおられるので、その人達にまず学んでいただくということで、全国各地でセミナーがありました。

そして、時の経過とともに、セミナー開催地が限定され、今は関西に集約されて

います。

そもそも、この学びの基本的な考えは、来る者拒こはまず去る者追わずということです。いらつしやい、いらつしやい、あなたもどうですかと無理な勧誘をしたりしません。本当のことを知るために学びがあります。人をたくさん集めて学びの規模を大きくして云々うんぬんという必要はありません。その中で、学びは進化しました。今は、本当に学んでいこうとしている人達が学んでいくという時期に来了います。分からない難しいなあと言いながらも、心で感じ始めた人達が増えてきているからです。そして、そういう人達とともに学びが進行していくという形が出来つつあります。ですから新しい人を掘り起こして云々という必要がもうないんです。いわゆる学びの基礎固めは出来ているということです。二五〇年後に向けて学びの基礎固めはもうすでに出来上がっています。だから、全国各地に学びの場を設ける必要がなくなったとい

うことです。

また、なぜ志摩という土地になったのですかというのですが、それは田池留吉氏、田池先生が昔、昔、ある目的で志摩のとある場所を購入されていましたが、そのまま長い間、放置されていたという経緯があるんです。今はまだ使っていない志摩の土地を何とか学びに活かせないかという思いが田池先生の中にはずっとあったと思います。田池先生も高齢になり、財産整理ということもあって、あるひとつの計画が持ち上がりました。そうです、田池先生の思いとともに、周りの状況が徐々に整い始め、思いが現実の形となりました。それがUTAホール志摩という学びの場です。そして、近くにふるさと苑という建物が二棟建っています。そこには学びの友が暮らしておられ、その人達が週に四日、そのホールとともに瞑想の時間、学びの時間を持たれています。私も、一ヶ月に一度は、志摩のほうに出向いて学びの時間をい

ただいています。

志摩といえば伊勢志摩。伊勢志摩といえば伊勢神宮。そういうこともあつてかどうか、結果的にはあの地になりました。あそこはもともと田池先生が所有されていた場所でした。なぜ田池先生が志摩というところに土地を買われたのか、それは意識の流れの一端いったんだとお伝えしておきます。

■ セミナーでは、どのようなことをしているのですか？

セミナーは、原則二泊三日の日程で開催されています。セミナーに参加されてい

る人達の殆ど^{ほとんど}は、すでに二〇年、三〇年と学んでおられるので、学びとはどういうものなのかという知識は十分にあります。ですから、今は、セミナーは、自分の心で感じる、自分の心で分かるといふ実践の場と考えています。頭で理解した学びが、どの程度、自分の心で分かっているかを、それぞれが確認して、自分の学びの歩みを前へ前へ進めていくことを目標にしています。具体的には、一回のセミナーで、五時間半または六時間、セミナー会場に集合して、ともに瞑想をしています。セミナー会場の広さによりますが、一グループに二〇名〜三〇名ずつ前に出ていただいて、自分の心で感じていくという瞑想をします。その時間はそれぞれ三分〜四分程度です。今はこの瞑想をワン・ツー・スリーと言つて、学びの友と取り組んでいます。ワン・ツー・スリーのスリーで思いを向けていくことですが、最初は、自分の心の底の底の奥底に向けて瞑想をしています。それが一巡すれば、次に、

自分の中のアマテラスに向けて瞑想をしています。その他その時々によって、思いの向け先を変えて瞑想をするということもやっています。このように、セミナーの時間の大半は、ワン・ツー・スリーの瞑想に費やしますが、みんなとふるさとの歌（替え歌）を歌いながら、それぞれの中の喜びのエネルギーを知っていくという時間も用意しています。

■ 宗教ではないのですか？ 宗教とはどう違うのですか？

学びは宗教ではありません。全く違います。宗教には拝む対象物おががあります。い

わゆる宗教団体の組織図はピラミッド形式です。頂点に教祖、あるいは指導者と呼ばれる人がいます。頂点に立っているのだから、その人は偉い人なんです。ここでぴしっと区別をつけて仰あおぎ見るように仕向けます。様々な名目で多額のお金が吸い上げられていきます。勧誘もしなければなりません。以上、いくつか例を挙げましたが、この学びには、それらは一切ありません。このように、形の上からも学びは、宗教ではないことは明白です。そして、学びと宗教の世界の最も重要な唯一の違いは、基盤が違うという点です。では、基盤とは何か、基盤が違うとはどういうことなのかについては、あなた自身が自分の心で学んでいくべきことです。

■ 田池留吉氏が伝えてきたことが、本当のことだと、どうして分かるのですか？

科学で解き明かせないことがどうして分かるのですか？

まず初めにお伝えします。科学は万能ではありません。科学ですべてのことを解き明かすことができるあなたが思っておられるならば、それは大きな間違いです。科学では解き明かせないことがあるんです。科学はある一定のところまでしか解き明かせません。そして、そのある一定のところを超えた世界、その世界が真実の世界なのです。その真実の世界を科学で解き明かすことは不可能です。

さて、田池留吉氏が伝えてきたことが本当のことだとどうして分かるのですかということですが、それはあなたの心で分かります。あなたの心を敏感にしてください。本当の意味で敏感になってください。あなたの心の針が田池留吉という真実の世界

に本当にぴたっと合わせていけるならば、あなたの心で自おのずと分かります。田池留吉氏が伝えてきたことのみが唯一本当のことだと、真実は田池留吉氏が伝えてきたことだとあなたの心で分かるんです。これほど確かなものはありません。あなたの心で分かるからです。まずはそういうあなたの心の状態になってみればということ。そうすれば文句なしにそうだとあなたは納得するはずです。心で分かるとうことが何よりも大切なんです。どうぞ、あなたの心を本当の意味で敏感にしてください。

■ 今世において、この学びの内容を知る必要があるのでしょうか。

必要があるのか否か^{いな}とさえ、必要がありません。しかし、これはそれぞれの計画なんです。今世この学びに出会うか出会わないか、それはそれぞれに計画を立てています。そして、これから二五〇年に至る時間の中で、真実の波動の世界と出会えるか出会えないか、それはそれぞれの計画です。出会えるか出会えないかというのは、単なる出会いではなくて、出会っていても、素直に反応しなければ出会えないというようになります。

しかし、すべての意識達は意識の流れの中にありますから、すべてにおいて平等に公平にチャンスは到来します。そのチャンスをどの程度、真実の方向に向けるのに活用できるか、それはひとえに自分にかかっています。自己選択、自己責任とい

う意味で、すべてにおいて平等であり公平なんです。

この学びの内容を知る必要があるのかということよりも、知っていけば今生生まれてきて本当によかった、お母さん、ありがとうの思いが心から湧き起こってきます。学びを知って実践してきた人、心の体験を重ねてきた人、もうそれはそれは最高に幸せな人生を歩いておられると思います。それ以外の人で、どんなに形の世界で満たされていて、心の中は貧しさがいっぱいです。苦しさがいっぱいです。空しさがいっぱいです。自分の本来の姿に出会えていない意識の世界を抱えているからです。その意識の世界をしっかりと知っていく、そういうことがすべての意識に用意されています。意識の流れの中にある私達です。どうぞ、意識の流れをあなたもしっかりと心で知る方向に学んでくださればと思います。学びの内容を頭で理解するだけではだめなんです。あなたの心で分かっているってください。

2. 母親の反省について

母親の反省は、心を見る上で基本中の基本です。

心の学びを進めていくうえで、どうしても押さえておかなければ一步も前へ進めません。ここでは、母親の反省を進める上でつまづきとなるような疑問点を掲げ、塩川香世さんにご協力いただき、意識の世界からあなたへのメッセージとして答えていただくようにしています。

■ なぜ、母親の反省が必要なのでしょう？

それは、あなたがお母さんのお腹なかの中から産まれてきたからです。

決してお父さんのお腹の中から産まれてきません。

お母さんのお腹の中にいた時に、私達はみんな一番大切なものを伝えられました。それを思い出すためには、あなたを産んでくださったお母さんの反省が絶対に必要なんです。

■ お母さんの温もりが、なぜ、そんなに大切なのですか？

なぜだと思いますか。あなたはあなたの心の中に眠っているたくさんのあなたをご存じでしょうか。そのあなたが、今、苦しい、苦しいって叫んでいることを知っていますか。寂しい、寂しいって言っていることを知っていますか。苦しくて寂しくてどうしようもないあなた自身を感じていますか。肉のあなたは時々で幸せだ、嬉しいと思う瞬間があるでしょうが、あなたの中は決してそうではありません。それが心で感じられるあなたになってください。それには、本当の優しさが必要なんです。本当の優しさ、温もり、それはあなたの中にあることを、お母さんの意識が伝えてくれました。お母さんの温もりを捨て去ったこともまた、母の意識があなたに伝えてくれたのです。それがあなたが十月十日^{とつきとおか}、お母さんの子宮の中にいたと

きのお話です。そんなあなたにあなたが語っています。「お母さんの温もりがどうしても、どうしても、いるんです。私達を救ってください。助けてください。何とかしてください。苦しい私達の思いを聞いてください。」そんなあなたの心の声に耳を傾け、^{かたむ}思いを傾けられるようになってください。そうなってくれば、お母さんの温もりがどれほどあなたに必要なのか、お母さんの温もりだけが、自分を救っていくんだ、苦しみの底から自分自身を救い出していくのは母の温もりだということが、あなたの心で分かるんです。お母さんの温もりが最も大切なものです。お母さんの温もりはあなたを本当のあなたに蘇^{よみがえ}らせてくれます。

■ お母さんの温もりってどんなものですか？

あなたがどんなあなたでも、ただただ受け止めてくれる、優しく受け入れてくれる、そんな安らぎの世界です。

もう何も要らない、お母さんがいてくれさえすればそれで私は幸せですと心から思えるんです。

母の温もりはあなたのすべてを包んでくれます。

あなたのすべてを無条件に受け止めてくれるんです。

あなたは全託できる幸せ喜びを感じるでしょう。

■ なぜ、私達人間は、お母さんの温もりを捨て去ったのでしょうか？

肉、形を本物として生き続けてきた心に、お母さんの温もりは必要ありませんでした。温もりよりも、まず形で示されるものに心が動かされました。お母さんの温もりなどいらない。私達はそうして己の欲望のまま、この肉という形を誇つてまいりました。他力の神々を作ってきたのも私達です。私達はお金に狂つてきました。どうしようもない私達にお母さんの温もりを思い出していきましょと、唐突に言われても、そんな温もりなどで、生きていけるかと、即座に反発の刃を向け続けてきた私達です。ですが、心を見えるという実践、自分の流してきたエネルギーを心で知るといふ実践、それらの実践を重ねていけば、ただただ心に響いてくるのは、母の温もりを捨て去った己の心の貧しさ、醜さ、愚かさばかりです。なぜ、捨

て去ってしまったのか。母の温もりは自分自身です。自分を自分で捨て去った私達に、本当の喜び、本当の幸せが分かるはずはありませんでした。それなのに、喜びを求め、愛を求め温もりを求め彷徨^{さまよ}い続けてきた私達でした。母の温もりを忘れ去った、まずそのことにしつかりとそれぞれの心で気付いてください。なぜ捨て去ったのか、なぜ忘れ去ったのか。心で気付いていけばいくほど、なぜなのかということが、自分の心に響いてきます。温もりよりも金。温もりよりも他力の神々。そんな貧しい、貧しい歴史が心に響いてきて、本当に自分に申し訳ない、本当にごめんなさいと懺悔^{ざんげ}の思いが噴^ふき出してくるでしょう。

■ お母さんの温もりに向けて瞑想をしていますが、何の反応もありません。

どうしたら波動を感じられるようになるのでしょうか。

「何の思惑^{おもわく}もなく、ただひたすらに」というものが欠けているのではないのでしょうか。
欲の思いが渦巻^{うずま}いていることに気付いてください。

田池留吉に向けて、お母さんの温もりに向けてとありますが、その向いている方向が大きくずれているはずですよ。

なぜずれているのでしょうか。

それはあなたの心に他力の神々を宿^{やど}しているからです。

他力の神々にひれ伏^ふしている心をしっかりと見ていきましょう。

■ お母さんに、使ってきた思いが思い出せません。

そんなことあるはずはありません。あなたは今の今までお母さんに本当に従順でしたか。日々の生活の中で、幼い頃から、今に至るまで、あなたを生んでくれたお母さんに対して何一つ口答えることなく、何でもはい、はいと素直に喜んでいましたか。たくさんのことを思い出さなくてもいいんです。あなたが一番心を感じた場面、ワンシーンがあるでしょう。お母さんとの関わり合いの中で、あなたの心の中にドーンときた、ぐさつと突き刺さった、そういうワンシーンを思い出せばいいんです。その時、あなたはお母さんにどんな心を、思いを出したでしょうか。言葉を吐いたでしょうか。その瞬間出した思いを、吐いた言葉を、ノートに書いてみるとか、パソコンに打つとか、してみてください。一行、一言でもいいんです。あなた

の中にお母さんに対して恨み^{うら}辛み^{つら}がたくさん、たくさん詰まっているはずですよ。

一気に飛び出してくるかもしれません。たくさんは思い出さなくていい。ひとつのシーンを思い出し、そこを深く、深く見ていってください。

■
いつも頭をくるくる回す癖^{くせ}が取れません。

頭をくるくる回す癖があるあなたです。

心で分かるということも頭でとらえようとしています。

母の反省、つまりお母さんに使ってきた思いをしつかりと見て、ゼロ歳のあなた

を通してお母さんを思う反省を重ねてください。

自分の中を素直に柔らかくしてどんどん自分の瞬間流してきたエネルギーを感じていけば、意識の世界は理屈ではない世界だと分かります。

頭で理解できないけれど、エネルギーが肉体を通して突き上がってくる体験を重ねていけば、自然に頭は二の次三の次となっていくでしょう。不思議と驚き、そして喜びの実体験を何度も重ねてみてください。

3. 他力の反省について

他力の反省も、母親の反省と同様に、心を見る上で基本中の基本です。

「何をしたからいけない」というのでなく、教祖に使った思い、祭る思い、手を合わせる思い……自分の使った思いを見ていくのが基本です。心の学びをしているからと言って、出している思いが同じであれば、何も変わっていないということです。ここでは、そんな他力の反省を進める上で躓きとなるような疑問点を掲げ、塩川香世さんにご協力いただき、意識の世界からあなたへのメッセージとして答えていただくようにしています。

■ 他力信仰とは何を指すのですか？

一般的には、どこかの教団に属して、そこで伝えられている教えを真剣に学ぶとか、その教団の教祖、指導者に教えを仰ぐとか、そういうことです。ですが、それだけではありません。他力信仰というのは、私達の生活に密接に関わり、深く浸透しています。たとえば、仏壇に手を合わせる、お墓参りをする、占^{うらな}つてもらう、太陽を見ればご来光として拝^{おが}む、星に願いを込める、その他祈りを捧^{ささ}げる対象物を持つのもそうです。家族が平穩に暮らせますように、一年何事も起きませんようにと参拝する思い、無事安泰を願う思い、五穀豊穡^{ごこくほうじよく}を祈願する行事、そのような思い、行事は、生活の隅々にまで行き渡っています。

もっと専門的になれば、修行をするというのもあります。山を駆け巡^{めぐる}ったり、滝

に打たれたり、断食だんじきをしたり、それらは修行と称して、ただ単に肉体を酷使こくしする行為です。優しさのひとつかけらありません。己おのれ、己、己の聳え立ちそびの冷たい思いが流れ出していきます。

以上のように、他力信仰のすべてに共通することは、思いの向け先が自分の外とということです。願いを込めたり、祈りを捧げたりするのも、結局は幸せにしてください、幸せになれますようにということでしょうけれど、自分の外に思いを向ける、願いをかける、そういう心の使い方が間違っているんです。もちろん、修行する心は全く間違っています。

自分の外に思いを、心に向ける。その向け先にさて何があるのか、そこが全く分らないんです。神、仏と言われるものが本当に存在するのでしょうか。人間というものはるかに超えたところに、神、仏が存在すると、本当にあなたは思いますか。

他力信仰というのは愚かなことです。信仰心が厚いのはいいことはありません。褒められるべきことではありません。間違っているんです。他力信仰は人類を破滅に至らせるものです。そこまでのご自覚があなたにはあるでしょうか。

■ 今世は、他力信仰をしていませんが、

他力信仰の反省はどのようにすれば良いですか？

他力信仰。狭い意味で今世はなさっていないかもしれませんが。しかし、前の質問にもありましたように、他力信仰とは、私達の日常生活に密接に関わっています。

あなたは、ご先祖様といって仏壇に手を合わせたり、お墓参りをしたりということが一度もないんですか。お正月に神社にお参りしたことはないんですか。おみくじを引いたことはないんですか。占うらないはどうですか。色々、これまでを振り返ったとき、日頃何気なくやつてきたことが、すべて他力信仰の思いと同じ根っこで繋がつなっているということを知ってください。色々なことをやつてきたでしょう。なぜそういうことをしてきたのかということ、自分に聞いてください。それが広い意味での他力信仰の反省です。たとえば、なぜ、仏壇に手を合わせたのか、なぜお墓参りをしたのか、なぜお正月に神社にお参りをしたのか、そういうところを自分の心に聞いてみてください。あなたの中に、答えが出てくるはず。無事安泰を祈る心、願う心、幸せになりたい心等々、あなたの中に山ほどあるでしょう。その心、その思いはいったどこからくるのか、なぜ出てくるのでしょうか。

■ 神は存在しないのですか？

なぜ、手を合わせて拝^{おが}んだり、祭ったり、祈ったりすることがいけないのですか？

神は存在しません。ただし、神は存在しませんというところの神のとらえ方がずつと間違ってきたということを付け加えた上で、神は存在しませんということになります。そうです。私達は神のとらえ方を間違い続けてきました。神の世界を特別視してきたのです。そのような神の世界は存在しないということになります。それではどのような世界が神の世界というのでしょうか。それは、あなたの中の本当の優しさ、温もり、喜び、愛の世界、すなわち本当の自分の世界ということになります。それを強^しいて言うならば、神と表現していいかも知れません。しかし、神と言えは従来からの神と言葉が同じなので紛^{まぎ}らわしいです。だから、私達、この学びに触^ふれ

た者は、今は神という言葉は極力使わないようにしています。愛ですね。私達は愛、喜び、温もりと表現しましょう。

神、世の中で言われている神の世界というのは、私達人間が欲の塊かたまりで作りに上げた世界です。波動はブラックです。しかし、世間では、神聖なものとなっています。そういう神の世界などどこにもありませんでした。あたかもあるように言ってきたのが私達人間です。愚劣ぐれつです。だから、神は偉大なりと言って平気で殺人を犯していくのです。ですが、真実の波動の世界を知らなければ、それも致し方のないことです。

私達人間が欲の塊で作りに上げた世界、ブラックの世界に向かって、拝おがんだり、祭ったり、祈ったりすればするほどに、ブラックのエネルギーが垂たれ流れていくだけです。この実態をあなたもどうぞ、ご自分の心で感じられるようになってください。

■ なぜ、お葬式そうしきやお墓、仏壇が必要ないのですか？

いわゆるお寺のお坊さんと呼んでというお葬式は必要ありません。しかし、私達は死ねばその肉体の処置が必要です。肉体を放置するわけにはいきません。きちんとした決まり事で肉体を処理しなければなりません。そういう手続きは必要です。それ以外は必要ありません。いわゆるお葬式やお墓、仏壇、戒名かいみょうなど全く必要ありません。

私達は死んでも存在します。死ねば肉体という形がなくなるだけです。生きていくということは、肉体という形を持っているということです。しかし、その肉体そのものが私達ではありません。私達は目に見えない意識、波動、エネルギーです。生きていようが死んでいようが、その波動、エネルギーは存在します。しかし、肉

体という形はそうはいきません。形は有限だから、時の経過とともに朽ち果てていきます。だから、死ねばその処理をしなければならいだけです。今は火葬かせうです。火葬すればいいだけです。お墓も仏壇も何も要いりません。いったいお墓に何を入れるのですか。骨ですか。骨は私達ではありません。死んで骨になったというのは間違っています。私達は死んでもここに存在します。意識、波動、エネルギーとして存在しているんです。お墓、仏壇、そういうものに多額のお金を出費するということは本当に馬鹿げています。戒名もそうです。何もかも間違った考えが横行おうこうしています。肉という形を本物とする思い、自分達は肉だという間違った思いは、お墓、仏壇といったものをないがしろにすれば……という思いを膨らませていきます。そのような思いがあなたの中にあるませんか。その思いをしつかりと見てまいりましょう。

■ 日本で暮らす上で、初詣はつもつでや七五三、結婚式、お葬式そつしきと、生まれてから死ぬまで、神道から仏教まで、様々な行事が生活と深く関わっています。他力がいけないとなると、生活そのものが難しくなると考えてしまいますが……。

そうですね。初詣等、様々な行事が私達の日常生活に深く関わっています。そういう行事が他力のエネルギーと繋がつなっているということを知ったあなたは、他力がいけないのなら、そのような行事に臨のぞむことはいけないことだ、しかし、そうならば生活そのものがぎくしゃくすると判断されているようです。学びをしていくについて、そういうものを止めていくべきなのか、それとも、いけないと知りつつ、世の中の流れの中で難なくやり過やごしていこうかと迷われているようです。

あなたは、他力がいけないということを自分の心で分かっていますか。感じてい

ますか。ただ単に知識として他力はノーだと知っておられるだけではないでしょうか。本当に自分の心で他力に繋がるエネルギーがどれだけの凄まじいエネルギーなのかを感じていれば、色々な生活の中におけるそれらの行事は止めていこうと自然に思ってきます。そういうこともして、学びもしてというのは、まさに二股ふたまたです。二股というよりも、そんな状態では学びはできません。ということは、やはり世の中の流れ、常識の中で無難に過ぎていきたいというこれまでのあなたの生き方に何ら変わりはありません。学びは人生です。学びこそが人生です。これまでの転生てんしやうで培つちかってきた思いとか考え方を一八〇度変えていくこと、つまり肉から意識への転回が学びにとって一番大切なポイントです。しかし、それはそれぞれが自分の心で本当に感じていくことであり、自分の流してきたエネルギーだとか、他力の中に生き続けてきたエネルギーだとか、そういうものを自分の心で感じるのがなければ、

やはり肉の中に埋^{うず}もれたまま、沈み込んだまま、濁^{だくりゆう}流の中に流されていくという
転^{てん}生^{しょう}に変わりはないでしょう。

4. 心を見ることが

母親の反省も、他力の反省も、日々の反省も、自分の心を見ることがすべ
てということになります。

ここでは、心を見ることがについて、疑問となるような事項を掲げ、塩川香
世さんにご協力いただき、意識の世界からあなたへのメッセージとして答えてい
ただくようにしています。

■ 心とは何ですか？ どこにあるのですか？

心とは、あなたの頭の中にあるのではなく、あなたの胸のあたりにあるのでもありません。

心とはあなたのそんなちつぽけな肉体の中にあるのではないんです。
肉体に付随する心の世界は小さな世界です。本当の心の世界は、限りなく広がっていく世界なんです。

そして、その心の世界が実はあなた自身なんです。
あなたは心そのものだと言えるでしょう。

■ 心を見るときはどういうことですか？

心を外に向けていくのではなくて、

内に向けていくとはどういうことでしょうか。

心を見るということは、自分の出す思い、つまりどんな思いが心から出てくるのかを確認する作業であり、同時に、瞬間的に出す思いの強さを知っていく作業です。思いはエネルギーです。心を見ていくことによって、自分の流してきたエネルギーを感じて、自分はエネルギーそのものだを知っていくことができます。日々、生活をしていけば、色々な人と出会うでしょう。色々な出来事が起こってきます。出会う人、起こってくる出来事によって自分の心が揺れ動く場合があります。そんな時、どんなに凄まじいエネルギーが瞬間的に出るか確認することが大事です。

このように、日常生活の中で目から耳から様々な情報が飛び込んできます。それによって、自分の中からどんな思いが、どんなエネルギーが飛び出していくかを瞬時に感じる、知る、それが心を見えるということです。

日々の生活の中で心を見る習慣をつけることももちろんですが、心を見えるという作業に欠かせないものは、母親の反省と他力の反省です。そのふたつの反省を通して、自分の中に蓄^{たくわ}えてきたエネルギーをじっくりと振り返ることが大切です。

そもそも、私達の心は常に外に向きがちです。外からの情報を得て、色々考えたり、判断をしたりするという習慣がついています。私達の目はいつも外を向き、耳は外を向き、それらを通して得る情報がないと私達は不安なんです。落ち着かないんです。心の中に向けて自分の中を掘り下げていく、自分の出してきたエネルギー、自分の発してきた思いをじっくりと見ていくという作業、つまり心を見えるという作業は、

今世、初めて私達が学んだことです。まだ不慣れな点が多々あります。外に向いていた心の針を中に向ける。そういうことに不慣れな私達は、知識としてはあつても、気が付けば、心は外を向いています。自分の中に心を向けることなく、心は外に向きっぱなし、そういうことだと思います。それでは、自分の中がどんな状態なのか、分かるはずはありません。形は、いくらでも整えられます。言葉巧みに体裁を取り繕うことは簡単です。しかし、そういうものでは自分をごまかせないんです。自分の思いはごまかせないということも私達は知っているんです。自分には絶対に嘘はつきません。

顔で笑って心で泣いて、顔で笑って心でこんちくしょう。そんな矛盾した自分から一日も早く抜け出して、本当の笑いを知って、本当にありがとうと自分の内から滲み出るように、自分の思いの世界を変えてまいりましょう。

■ 苦しいとはどういうことですか？ 苦しいということがわかりません。

人を責めたり裁いたり、人を見下したり馬鹿にしたり、その反対に人に媚びへつらったり、恨んだり怒ったり、愚痴、不満、文句を言ったり、その他にもまだまだたくさんあるでしょう。寂しいとか悲しいとか辛いという思いをあなたは経験したことがないですか。これらの思いはみんな苦しい思いです。このような思いを出しているにもかかわらず、あなたは自分が苦しいということが分からないと言っています。それはなぜなのでしょう。あなたの心には暗い重い思いがどつしりと残っています。それが苦しいと感じないのはなぜなのでしょう。あまりにも肉に埋もれてしまっているからです。そんなのは当たり前、生きていれば色々とあって、それが人間の感情だとやり過ごしてしまっているのです。当たり前ではないんです。

異常なんです。喜び以外の思いは全部、ブラックの思いです。それをまずしっかりと認識してください。そして、ブラックの思いを無造作^{むぞうさ}に出してきた自分でしたと知ってください。私は肉だという基盤の上にいる限り、ブラックの思いを垂れ流^たし状態です。それがいったい何を意味するのか、あなたは自分の心で知っていかねければならないでしょう。

■ 世界各地で起こっている戦争は、なぜ終わらないのですか？

人は、なぜ闘うのですか？

私達人間が、神というブラックの世界を心に握^{にぎ}っている限り、世界各地で起こっている戦争は終結しません。戦争は神と神との闘いです。我は偉大なりという思いが、互いに譲れないのです。神の名のもとにそして正義の名のもとに、平気で人殺しをしている人間の心は狂っています。狂っている、狂ってきたと本当に心から気付かない限り、相手の息の根を止めるまで闘い続けます。人間の歴史は闘いの歴史です。血で血を洗う闘いを繰り返してきました。本当の正義とは何か、本当の平和とは何か、人間には分かりませんでした。自分達の本当の姿を見失ってしまったからです。

■ 素直になるとは、どういつことですか？

優しいとは、どういつことですか？

素直とは、単にはい、はいと従うという意味ではありません。そしてまた、何に素直になればいいのかということも問題です。一言で言えば、本当のあなたの世界に素直になるといえるのは、簡単なようで難しいです。第一に、本当のあなたの世界といっても、いったいそれはどんな世界なのか、どこにあるのかという疑問が出てくるはずで、あなたの目の前に展開している形の中で、一日が明け暮れていくという生活では、肉のあなたしか登場しません。それでは素直ということも、優しいということにも無縁です。

肉のあなたの思いだけではなくて、あなたの中にあるたくさんのあなたの思いを

知っていく生活に、徐々に切り替えてくださればと思います。

「あなたの中にあるたくさんあなたの思いを聞いてあげてください。」それがあなたの本当のあなたの思いです。そして、本当のあなたは、肉のあなたに、「私に素直になってください」と伝えてくれているはず。そして、「本当の優しさとは、あなたの中のたくさんあなたの思いを聞いて受け止めていけるあなたのこと」を言っているんですよ」と伝えてくれているはず。

「本当は、あなたは素直なんです、優しいんです」と伝えてくる本当のあなたに素直になって、あなたの中の優しい思いを信じてみてください。

■ 波動とは、どういふものですか？

波動とはどういふものかを言葉で説明できません。しかし、波動はあなたの心で感じるができます。あなたの心を敏感にして、つまり、波動の世界、目に見えない波動は絶えず流れているんだということを知って、あなた自身に、そして色々な現象等に、思いを向けてみてください。ただし、これは、自己責任のもとでやってください。自分の中に母の温もりがあると知った状態で、色々なもの、色々なことを波動としてとらえてみてください。目に見える形ではなく、すべては波動を流していると感じられたならばいいのではないのでしょうか。目に見える世界と目に見えない世界があるけれど、それはどういふことなのかと、おの自ずと思ふようになってきます。

目に見える世界のみで生きてきた心を、変えていくきっかけになると思います。

■ 田池留吉、そして、アルバートとは？ なぜ、その名前なのですか？

田池留吉、アルバートとは真実の波動の世界を指します。

今の三次元の中で、真実の波動を伝える手段として、まず肉という形を持つ必要がありました。当然に名前が付きます。

今世と二五〇年後にそういう名前のついた一人の人間が指し示す方向に、心の針を向けて合わせてくださいということです。

つまり、あなた自身を向けて合わせていきやすいようにとの意識の世界の計^{はか}らいです。特に呼称にこだわりません。

■ 私って誰？ 本当の自分って一体なんですか？

もちろん、本当の私は愛です。

その愛である自分に目覚めていくことが待たれています。しかし、その道は大変
厳しいし険^{けわ}しいです。厳しくて険しい道だけれど、不可能なことではありません。
素直になって真摯^{しんし}になって、自分の中の本当の自分に、愛に目覚めていく道を選ん
でください。

■ 愛ってなんですか？　今まで思っていた愛は間違いとはどういう事ですか？

愛は本当の私達です。心が私達だと言いましたが、その心の中には愛しかないんです。つまり私達の中には愛しかないんです。ただ、今このように申ししても、まだまだ分かったような、分からないような曖昧模糊あいまいもこだというのが現実だと思います。愛を本当に分かっていくにはまだまだ時間が必要です。天変地異という大きな愛の現象を通して、自らの存在みずかつまり愛に目覚めていくという意識の流れの計画があります。ただし、はつきりと分かっているのは、これまで人間が広げてきた愛の世界は偽物にせものだということです。それは人間が自分の本当の姿を忘れ去り捨て去ったからです。愛である自分を忘れ去って捨て去って、自分の外に愛を求めていった、ここが私達人間の大きな過ちあやまでした。

■ セミナーに参加しなくても、家で学ぶことはできますか？

仕事や家事で、自分の時間が取れないこともあります。

どのように進めていけば良いですか？

私は意識、波動、エネルギーだと本当に心で分かっているならば、セミナーに参加しなくても、家で学ぶことはできます。そういう状態であれば、正しい瞑想をして、どんどん意識の世界を広げていくことは可能です。そうでなければ、家で学ぶことには限界があります。

また、仕事や家事で、自分の時間が取れないこともあるということですが、何とか工夫して、瞑想をする時間を作ってください。仕事や家事をしながら、心を見ていくという学びの基本をしっかりとすることは何よりも大切なことです。しかし、

それだけでは全く不十分です。瞑想をする時間は必要不可欠です。心で分かっているためには、瞑想、正しい瞑想ができなければなりません。

■ セミナーでの瞑想と、自宅で一人でする瞑想の違いは何でしょうか？

瞑想は一人でできるとありますが、セミナーや地域の仲間でするのはなぜでしょうか？

セミナーでの瞑想と、自宅で一人でする瞑想のたったひとつの違いは、波動です。たとえば、あなたが本当にこれが田池留吉の波動であり、アルバートの波動だと確

信があるのならば、無理をしてセミナーに来なくてもいいのです。しかし、本当にそうであるならば、セミナーに来たくなくなります。波動の世界とはそういうものです。

また、瞑想は、基本的には一人でするものです。セミナーでしているから、地域の仲間としているからといって、自宅で瞑想をしなくてもいいということにはなりません。自宅で瞑想をする習慣をつけてください。そして、そのうえで地域の仲間達と瞑想をすることによって、それぞれ互いにいい勉強ができると思います。

■ 自分が正しい方向に向いているか、間違った方向に向いているのか、どうしたら分かるのですか？

自分に聞けばいいのです。自分の中の本当の自分に聞いていけばいいのです。聞いて出てきた答えを受け止めて、そこからまた自分の学びを進めてください。自分で出した答えに、自分で責任を持つのは当たり前のことです。また、自分の中から正しい方向に向いていると出てきたけれど、色々とあつて、どうも怪しいなあという思いが過れば、その思いもまた真摯しんしに受け止めて、しっかりと心を見てください。

5. 日々の生活の中で…

毎日の生活の中でも、心は絶えず動いています。仕事に振り回される、また家事・育児に振り回され、自分の心を見ることがおざなりになるようでは、心を見る学びを進めているとはいえません。

仕事をしなくていい、家事をしなくていい、育児はしなくていいということではありません。仕事のなかで、生活のなかで、動く心を絶えず見ていく習慣を持つ、それが日々の反省です。

ここでは、日々の生活の中で、疑問となるような事項を掲げ、塩川香世さんにご協力いただき、意識の世界からあなたへのメッセージとして答えていただくようにしています。

■ 日々の生活の中で、嬉しい、楽しいと感ずることもあるのに、どうして、その嬉しさが続かないのでしょうか？

その嬉しさは、形の世界を中心とした嬉しさだからです。日々の中で、色々と感じる嬉しさ、楽しさは一過性のものだと考えてください。状況が変われば、それらの嬉しさ、楽しさは、たちまちのうちに悲しみ、苦しみに変わっていくのではないのでしょうか。

本当の嬉しさというのは、そういうものではありません。意識の世界を感じ広げていったときに心に響く嬉しさは、絶対に消えないものです。その嬉しさは本物だからです。意識の世界を感じ広げていったときに心に響く嬉しさ、それは、ああ私はこの世界に生きているんだと心から思える思いと出会っている嬉しさです。形の

世界を本物とする中においては、そのような嬉しさには絶対に出会えないです。

■ 心は常に動いているというのですが、いつも心を見ていたら、

日常生活や仕事に影響しませんか？

日常生活や仕事に影響するような心の見方とはどのようなものですか。心を見るとは、出した思いを分析することではないんです。よしあしを判断することではないんです。

また、瞬間動く心は、何をしながらでも確認できます。確認した思いをそのまま

にしておくのか、あるいはさらにブラックの上積みうわづをするのか、それとも反転をしていくのか、それが大切なことです。

■ この世の中で、どのように生きていけばよいのですか？

あなたの思うように生きてください。何もかもあなたの思い通りにいかないのが人生だと分かります。色々な人との出会い、様々な出来事から、頭を打って、躓つまずいて、悩んで、苦しんで、それでも生きてください。

私はいったいなぜ生まれてきたのだろうかと真剣に問いかけながら、前を向いて

生きてください。そして、自分はなぜ生まれてきたのかと本当に心で知りたいと思うようになったら、ぜひこの学びをしてください。そして、この学びをしていこうと思うならば、学び一本にしてください。その覚悟で臨^{のぞ}んでください。

■ 自分を供養するとは一体どういうことでしょうか？

私達は、今の自分のひとつの肉体を指して自分だというのではないことは、もうすでに知っておられると思います。自分の中にはたくさん自分が蠢^{うごめ}いていること、それらを全部ひっくるめて私なんだと、それぞれが自分の心で感じられるようにな

れば、その自分の中に蠢うしめいている自分をどうすればいいのか、自おのずと心で分かります。そうです。苦しんでいる自分に伝えることがあります。本当の優しさに触ふれてください。本当の温もりを心に広げてください。その中で、もう苦しまなくてもいいよ、帰れるところがあつたんだよとはつきりと力強く、しかしどこまでも優しく優しく伝えていくことが、自分を受け入れていくということです。まず、自分を受け入れていくことが、自分を供養する第一歩です。苦しみから喜びへ自分を自分でいざなつてください。

6. なぜ生まれてきたのか

誰もが思っている疑問であり、誰もが成長する中で忘れてしまった、もしくは忘れてしまおうとしている根元的な疑問です。

それこそ自分の心を見ていかない限り、本当の答えは見つからない訳ですが、ここでは、そのヒントとなるようなものを、塩川香世さんにご協力いただき、意識の世界からあなたへのメッセージとして答えていただくようにしています。

■ 私達は、なぜ生まれてきたのですか？

生まれる前はどのような状態だったのでしょうか。

私達は、本当の自分に出会いたくて生まれてきます。苦しみの淵ふちから自分を救い出したくて生まれてきます。私に肉をくださいと、母の意識にお願いして生まれてくるんです。誰しもがそうだったけれど、現実に肉という形を持てば、そんなことはすっかり忘れ去ります。生まれたくなかったとか、親の勝手に生まれてきたとか、子は親を選べないとか、散々な思いを吐はき出す人もいます。しかし、知ってください。あなたの心で分かってください。肉を持つことを切望してきた自分の思いに触ふれてみてください。

生まれる前、母のお腹なかに入る前は、みんな苦しみの奥底の底のそのまたずっと奥

底に沈んでいた状態でした。これもまたあなたの心で分かると思います。苦しみの奥底の底のそのまたずっと奥底から這い上がってきたことを感じていけば、学びに触れている今がどんな幸せな時なのか、一目瞭然に分かるでしょう。要は、それぞれの心で感じなければ、どうしようもないということです。

■ 私は、なぜ、今生きているのですか？ どうして生きていなくては
いけないのでしょうか？ 勝手に死んではいけないのでしょうか？

あなたがお母さんの反省をしていくと分かります。

どんなに肉体が欲しかったか。

私を産んでくださいと切望してきたあなた自身の心の叫び声を感じていけば、どうして生きていなくてはいけないのか、どうして自分勝手に死んではいけないのか、あなたの心があなたに伝えてきます。

どうして生きていなくてはいけないのか、どうして自分勝手に死んではいけないのかと、そう思っているあなたの傲慢ごうまんさを教えてくれるはずです。

■ 人生は何をするためにあるのですか？

何のために生きているのでしょうか？

人生の目的ですね。私達人間は何度転生の機会をもらっても、本当の人生を生きることは叶わなかったのです。何のために生きているのかという素朴な問いかけに、かな自ら答えを出すことができずに、苦しんできました。わが世の春と人生を謳歌したみづか転生も確かにあったかもしれませんが。しかし、私はそれにノーの判断を下します。わが世の春と謳歌したのは、ほんの一瞬でした。そしてその思いの裏側があつたんです。喜び一色ではなかったことを感じています。喜びの裏には、死んでいく恐怖と不安、執着の思いなど、様々な暗い重い思いを抱えて、表面的にはわが世の春を満喫しているという何とも矛盾した私達だったのではないのでしょうか。

死にゆく先の世界に不透明感を持ち、死んでいく哀れさを何度私達は味わったのでしょうか。生きている間に、本当にするべきことに出会って、我が人生万歳、死もまた喜びなりと肉体を置いていく瞬間を、今世こそ味わいたいものです。

■ コペルニクスの転回とは、どういふことですか？

世間でいうところの、いわゆるコペルニクスの転回は、すでにご承知の通りです。その考えを、学びにも応用してみましようということです。

学びのポイントは、意識の転回が^{はかど}捗っているか否か^{いな}にあります。意識の転回とは、肉から意識へ、基盤を変えていくということを指します。

肉、形を本物として、それを基盤として考える、思う、判断する、そういうことをずっと私達はやり続けてきました。そうではなくて、意識、波動の世界が実在する世界であり、肉、形ある世界はそれを映し出す影の世界であるという基盤から、ものを見る、思う、判断するということをやっていきましようということなんです。形の世界には実感あります。確かにそこに存在するという実感です。しかし、それは影

の世界だと言いました。あるようでないのが形ある世界なんです。一方、ないようであるのが意識の世界だと言っておきます。これは本当にそうなのかということは、それぞれの心で感じていく以外にありません。心は正直に伝えているはずなんです。苦しければ苦しいと、なぜ苦しいのかも伝えてくれます。それはどういうことでしょうか。それは、あなた自身が、実はみんな知っているということです。あなた自身、もちろん、このあなた自身というのは、肉、形を自分だと思っている偽物にせもののあなたではありません。

■ 肉体細胞が愛を流してくれているとは、どういうことですか？

肉体細胞は愛そのものだということです。その肉体細胞に支えられて、今の私達があることを、どれだけの人が心で気付いておられるでしょうか。

私達は、幸いにも肉体細胞に思いを向けてということも実践済みです。肉体細胞がどのような波動を流してくれているか、すでにあなたの心で受け取っておられるでしょう。病んで腐った肉体細胞も最後まで、あなたに気付きのメッセージを流します。愛だからです。愛だから、愛しか流れないんです。その肉体細胞とともに心を見られる今を、ただただ喜んでいきましょう。間違い続けてきた私達だけれど、肉体細胞の思いに触れて、少しでもその優しさを感じてください。

■ 私達は、なぜ死んでいくのですか？

肉体細胞の消滅とともに自分も消滅してしまうのですか？

肉体細胞というのは、有限の世界のものです。だからいずれはその形が消滅します。しかし、肉体細胞の本質は意識です。愛です。その形は朽ち果てても、愛として存在しています。肉体細胞に支えられて、肉という形を持っている私達のこの肉体も同様です。有限の世界のもので、だから、肉体の機能はいずれ衰え、やがて止まります。肉体という形を持って生まれてきた私達は、その形を捨てなければならぬ。死が必ずやってくるのです。それを私達は死と言っています。肉という形を捨てていくだけです。私達は、意識、波動、エネルギーですから、死んでも死なないということになります。したがって、私達は肉体細胞の消滅とともに消滅しません。

■ 死後の世界はありますか？ それはどんな世界ですか？

死後の世界はあります。しかし、その死後の世界は、いわゆる天国か地獄かというものではありません。天国どころか、死後の世界は地獄一色です。天国に召された、安らかに眠っておられる、こんなことは全くのでたらめです。過去、自分の本質に出会うことが叶かなわなかった私達人間の状態は、死んではつきりとするのです。肉が自分だとする思いは、死ねば、その思いによつて、自分を封じ込めていきます。つまり、暗くて寂しくて冷たい中に自分を押し込めて、固まっていくなのです。そんな状態が天国と言えるのでしょうか。だから、本当は、自分の本質、つまり本当の自分を捨て去つて忘れ去つて偽物にせものの自分を自分だとしてきたという過ちあやま、間違いに、生きている間に、つまり肉を持つている間に心で分かっていることが、何よりも自

分にとつての救いなんです。そのことが心で分からなければ、生きてても地獄、死んでも地獄ということです。生きているか死んでいるかの違いは、肉を持っているか持っていないかの違いだけです。

■ 「本当のあなた」とは何ですか？

本当のあなたは喜びです。喜び以外のなにものでもありません。一方、偽物にせもののあなたは、その心に喜び以外のたくさんの暗くて重い思いを抱かかえています。そしてそんな自分を自分だと思い続けているから、本当のあなたと言っても、ピンときません。

どこか遠い世界のお話であって、現実味を感じられないんです。それよりも偽物の^{にせもの}自分のほうが身近で親しみやすいんです。だから、偽物の自分を広げていくというか膨らませていく方向に、生きてしまうのです。

■ 本当の優しさ、温もり、安らぎとはどういうものですか？

それをあなたの心で感じてください。感じられるようなあなたに成長してください。すべてはあなたの心の中でしたか分かりません。しかし、あなたの心で感じていけば、ああ、自分の中にも、こんな世界があったんだ、こんな世界を心にずっと広

げていけば、本当に幸せだなあとあなたの心で分かってきます。人を恨^{うら}んだり憎^{にく}んだり蔑^{さげす}んだり妬^{ねた}んだり、怒ったり、不安や恐怖や心配の思いを膨らませていく毎日よりも、自分の中の優しさ、温もり、安らぎを信じていく毎日のほうがいいでしょう。生きていれば色々とおあって、それはそのほうがいいに決まっているけれど、そんなこと夢のまた夢と思っておられるならば、どうぞ、たった今から、真剣に学びをしてください。自分の心の中の出来事です。いくらでも変えていけるんです。

7. 次元移行と天変地異

これまでは「お母さんの反省」だったり「他力の反省」だったり、自分の生活と深く関わった内容であり、実感もつかみやすかったと思います。ところがここへ来て「次元移行」という、私たちの日常からは縁遠い世界があらわれてきました。

これを私たちと繋いでいるのが「天変地異」です。地球はまもなく終わりを迎え、私たちの「心を見る次のステージ」への移行、それが次元移行となる訳です。

と言っても、肉の次元でとらえている限り、雲をつかむような話です。

ここへきて、頭や知識では通じない世界、心でしか分からない世界へと入ってきただという感じです。

ここでも塩川香世さんにご協力いただき、意識の世界からあなたへのメッセージとして、いただいた疑問へのヒントを届けさせていただきます。

■ なぜ、天変地異が起こるのでしょうか？

未曾有^{みぞう}の天変地異が起こるといふのは本当でしょうか？

天変地異、それも未曾有の天変地異が起こってこなければ、私達人間の目は覚めません。本当のことを知らずに、醜^{みにく}い汚い自己中心的思いばかりを垂^たれ流してきた心をドーンと突き動かすために、未曾有の天変地異が最後の手段として起こってきます。私達の思い、考え、価値基準を根底から覆^{くつがえ}す何かとは、もう天変地異しかありません。それも、想像を絶する規模の天変地異、まさに未曾有の天変地異です。何もかも容赦^{ようしや}なく形の世界が崩れ去っていく体験の中で、やっと、自分達がかかを間違えてきたと感じ始める人が増えてきます。私達はこれまでに、天変地異が起こるたびに、もう二度とこんなことは起きませんようにと祈りの思いを流してきました

た。神の怒りに触れたと神を恐れてきました。あるいは、これほど救ってください、助けてくださいと奉り、祈りを捧げてきたのに、神は、仏は何もしてくれなかったと、恨み呪いの思いを出していきました。

それら全部が全部、違ってはいるんです。怒る神とは何ですか。祈りのエネルギーをあなたは知っていますか。神を仏を奉ってきた心の中に、願いが叶わないとなると恨みが出てくる、呪いが出てくるとは、いったいどういうことなのでしょう。何も分らずに、全く無知なままに欲の思いを膨らませた結果を、しっかりと私達は自分の心で見取っていかねばなりません。真正面からそれを受け止めて、そして、本当の自分に、愛に逆らい続けてきたことを知って、自分に懺悔していかなければならないのです。私達の本質は愛です。愛ゆえに、自らを目覚めさせるために、未曾有の天変地異を起こしていきます。

■ 日本の国は滅^{ほろ}んでいくのでしょうか？

はい、滅んでいきます。アマテラスの意識が現象化した日本の国は、アマテラスの目覚めとともに、その形は滅んでいきます。形の消滅です。

喜んで、日本の国を沈めていくアマテラスです。アマテラスは自分の中の愛に蘇^{よみがえ}り、次元を超えてさらに進化していくのです。

■ 日本の国が減んでいくのは天照大御神あまてらすおおみかみと関係があるのですか？

もちろん、関係があります。闇黒あんこくの宇宙、アマテラスの目覚めにより、天照大御神もまた、誇ってきた自分の世界の小ささに気付いていくのです。本当に小さかったと気付きます。そして、我こそは神なりの思いを崩していきます。日本の国が消滅していくのは、天照大御神の世界が崩れ去っていくからです。天照大御神を奉たてまつっている土地、地域が壊滅かいめつ状態になっていきます。天照大御神を奉っている土地、地域は日本の国至るところにあります。思いが変わっていけば、それを映す現象が変わっていくことを示しているのです。

■この学びでいう「アマテラス」と「天照大御神」あまてらすおおみかみは関係ありますか？

関係があるかと問われたら、関係がありますと答えます。関係があると知ったならば、次に出てくる質問は、どういう関係なのかということだと思います。そういうことは、学びをしていくうえにおいて、重要なことではありませんが、簡単に言うと、天照大御神という世界は、アマテラスの世界に包括ほうかつされているということです。つまり、アマテラスの世界が変わっていくにつれて、天照大御神の世界も変わっていきます。

エネルギーの強さ、大きさについて、両者には雲泥うんでいの差があります。

闇黒あんこくの宇宙を指してアマテラスと言っています。もともと、闇黒の宇宙ということでは、アマテラス以外にもいくつかの名称が紹介されています。その中で、今は

闇黒の宇宙のひとつであるアマテラスに着目しましょうということで、その経緯は、すでに説明をさせていただいています。

■ 次元移行とは、为什么呢？

文字通り次元を移して行くということです。今、私達がいる次元は、三次元と呼ばれています。この世界にはいわゆる縦、横、高さがあります。立体的な世界です。エネルギーである私達は、この三次元で地球という星に、立体的な肉という形を携^{たずさ}えて何億年とお世話になってきました。

地球上において生息するのに適した身体的機能を備えて、生まれては死んでという転生の機会を数限りなく用意しました。それは何のためでしょうか。

意識、波動、エネルギーとして目に見えない存在の私達が、形ある世界にやってきたのは、その形、つまり、目や耳や身体全体を使って、自分というものを知っていうということだったはずです。三次元にやってくる前から、なぜ私達は苦しみ続けなければならなかったのかという課題を抱えていました。しかし、三次元での私達のこれまでの転生では、その課題に明確な答えを出せずに、苦しみの上塗りをする結果になってしまったということです。肉という形を持って自分を知っていかうとしてきた私達なのに、形を持ってしまうば、その形を自分だと思い込んでしまつて、本来の軌道から大きく外れていったからでした。大きく外れていった軌道に戻していきましよう、と、真実の世界から、肉という形を持って、そのメッセージを届けてくれたのが今世でした。

■ 次元移行できないと、どうなるのでしょうか？

宇宙のもくずとなって彷徨い続けます。ただ彷徨っているというのではなくて、苦しみの奥底で彷徨い続けるということです。どれだけの時を経ていくのか、想像もつきません。もちろん、地球上に肉という形を持って生まれてくるということとはできません。地球という星は、私達人間が住める環境ではなくなっているからです。では、地球以外に生息可能な星があつて、そこに適したものを備えてくるのかどうなのか、それは定かではありません。ただ、その確率は非常に低いでしょう。やはり宇宙のもくずという表現が的を得ていると思います。

■ 意識の流れの中で、日本の国が重要な位置にあると言われています。

それは、なぜですか？ また、日本がなくなったあと、意識の流れの中で大きな役割を果たすのはアメリカだと聞いています。それは、なぜですか？

意識の流れは、次元移行を伝えています。次元移行に向けて意識の流れは^{しゆくしゆく}肅々として仕事をしています。次元移行は、全宇宙とともにという^{はたしるし}旗印のもとに予定通り遂行^{すいこう}されます。全宇宙とともにということですから、宇宙を目覚めさせなければなりません。そこで、まず、闇黒^{あんこく}の宇宙の筆頭であるアマテラスに白羽^{しろは}の矢が立ちました。アマテラスと言えば、その意識が具現化した日本の国です。まずはここから、意識の流れのメッセージを発信するという仕事がありました。日本の国で目覚めを起こし、そして、基礎を固め、そのまま満を持して次元移行を達成するという計画

です。

二五〇年後に満を持して、多民族、多宗教の地、アメリカを最終地としました。これが意識の流れの計画であり、なぜなのかという疑問を挟むことはできないと思います。

■ 今世があつて、過去世も来世も、今の自分にあると言われていますが、どうすればわかりますか？

今のあなたの心を見てください。あなたの中から出てくる思いをしつかりと見て

ください。その思いは、今のあなたの思いだと思ってもらえるかもしれませんが、果たしてそれはどうでしょうか。今のあなたというのは、何なのでしょうか。肉が自分だと思っておられる限り、今のあなたは、目に見えるあなたおひとりでしょう。しかし、あなたの本質は過去から未来へ続く流れの中にある意識、波動、エネルギーだということですから、今あなたが思っている思いは、過去のあなたの思いでもあり、未来のあなたの思いでもあるということになりはしませんか。だから、今、あなたがあなたの心を見て、その思いを正しい方向に向けていけば、過去のあなたの思いも、未来のあなたの思いも方向転換をしていくことになります。

このことが、どうして分かりますかということですが、それはあなたの中にコペルニクスの転回を起こしていけば、分かってくるのです。

■ なぜ、今世から来世へ繋^{つな}げていく必要があるのですか？

初めて意識の流れを肉を通して伝えていただいたのが今世からです。今世を境にして、意識の世界の変革がなされていきます。だから、なぜ繋いでいく必要があるのかというよりも、その意識の流れをそれぞれがそれぞれのこれからの転生^{てんしょう}へ必ず繋^{つな}いでいってくださいということなんです。繋いでいかなければ、宇宙のめぐずとなつて、気の遠くなるような時間、苦しみの中彷徨^{さまよ}い続けていくでしょうと言われている。このことは決して根拠のないあやふやなものではないんです。みんなあなたの心で分かります。意識の流れに思いを向けて、そこから伝わってくる思いを聞いてみてください。

■ なぜ、二五〇年後なのですか？

二五〇年後ときちんと決まっているわけではありません。また、いつから数えて二五〇年後なのかという質問も出てきそうです。数字で、二五〇年後、三〇〇年と示されていますが、あまりそこにこだわらないでください。

しかし、地球時間で考えて、そんなに遠い先のお話ではないことははっきりとしています。地球上で転生てんしょうを繰り返してきた時間は何億年です。その時間に比べれば、二五〇年、三〇〇年という時間は、あっという間にやっけてきます。二五〇年、三〇〇年という具体的な数字で示されていますので、そのことによって、もうすぐそこまでやってきている、あまり時間は残されていないという感覚を持つてくださればいいのではないでしょうか。

■「天変地異」が「喜びのエネルギー」とはどういうことですか？

天変地異が起こってくれば、私達に様々な影響が出てきます。天変地異は、容赦ようしやなく私達の生命と財産を奪うばっていきます。一瞬のうちに天国から地獄へ真つ逆さまです。悲しみや絶望、不安、恐怖等々の暗い思いの中に、一瞬のうちに私達を突き落としていく天変地異の何が、どこが喜びのエネルギーだというのか、到底理解できませんということでしょう。それはそうです。形ある世界に生きている、形ある世界がすべてだと思ふ思いの中では、天変地異というものは忌み嫌われるべきものになってしまいます。

しかし、私達は形ある世界に生きているのではないんです。形ある世界がすべてだと思ふ思いが違っているんです。

形ある世界を基盤とすれば、形を崩す現象、つまり天変地異はマイナスだととらえます。一方、形ある世界は影の世界であり、思いの世界、意識の世界に私達は生きていくという基盤の上で、天変地異のエネルギーを感じれば、決してマイナスのエネルギーではないと分かります。

要は、天変地異というものをマイナスととらえるか、プラスととらえるかということには、あなたが何を基盤としているかということに係^かっています。

■信じようとしているのですが、「次元移行」とか「二五〇年後」とか言われても、自分にとっては非現実な世界のこのようにしか思えません。時間という壁に

取り囲まれているようで、胸落ちするような実感には到りません。何か突破口になるような方法はないのでしょうか？

母の反省をしてください。母の反省を通して、本当の母の意識、その波動に心で触れてください。その波動とは温もりです。そして、母の温もりが自分の中にあつたと本当に心で感じられたならば、その中で、宇宙を思う瞑想をやってみてください。ただし、繰り返しますが、その瞑想は母の温もりをしっかりと心で知ったうえでやるようにしてください。

宇宙に向ける瞑想を重ねていくと、自分はこの地球上にやってくる前からずっと存在していたことを感じてきます。そんな自分の心の歴史が、自分の中に響いてくれば、次元移行も二五〇年後ということも、決して非現実なお話ではないことが分

かるんです。これは確かなことです。ただ、それを感じられるのは、何度も申したい通り、それぞれの心です。心で感じられる世界であり、心でしか感じられない、分らない世界が、意識、波動の世界ということになります。

では実際に反省をしてみましよう

いかがでしたでしょうか。あなたが心の世界、意識の世界に関心を持たれ、自分と向かい合おうとされたのであれば、まずはお母さんの反省、他力の反省、日々の反省からはじめるようにしてください。

独りよがりの瞑想は危険です。何をおいてもお母さんの反省からはじめるようにしてください。

(1) 母親の反省をする

■ ノートひろげ「お母さんの反省」をしてみよう。

自分にもっとも身近な人間、私達を産んでくれたお母さんに対し、生まれてから今までどんな思いを出していたか。思い出せるところからノートに書いていきます。

お母さんが何をしていたかではなく、お母さんに対し自分がどんな思いを出していたか、それを見ていくことがポイントです。どんなことでも結構です。何も大げさなことを考えず、身近なことから思い出していつてください。

私達の、もともとの姿は意識です。母親の子宮の中に漂^{ただよ}っている胎児、その心こそが、私達の本来の心ではないでしょうか。お母さんの温もりの中に包まれ、何も案ずることなく、ただゆだねきった姿、それは、すべてをゆだねきっている私達自身です。

ところが、いったん、肉体として生まれ出ると、成長と共にたくさんの汚れをつけ始めます。競争心、嫉妬^{しつと}心、支配欲、金銭欲、名誉欲……みんな、肉体が自分だと思うところからつけた汚れです。

私達は決して、今の人生だけを生きているわけではありません。何千、何万という過去世を引きずって生きています。肉体が自分だと思い、その肉体を満足させるため、名誉を求め、権力を求め、意識の世界へと帰るべく用意された人生から、かえってどんどんと遠ざかって

きたのです。

意識の世界から出た人類が、心を汚していく過程、その過程こそ、私たちが母親の体内から生まれ、成長していく姿そのものではないでしょうか。私たちは、過去世から繰り返してきた誤り^{あやま}を修正するため、この人生を与えられています。過去世など分からなくても、今、自分の心の中を見れば、本当の自分から離れていった、永い、永い間違った心の歴史があります。

ともに心を見ていきましょう。お母さんに対して出していた思いをたどりながら、自分の心の間違いに気づき、ともに、本当の自分へ、お母さんの子宮の中へ戻っていきましょう……。

■ つぎの要領で、お母さんの反省をしていきましょう。

a お母さんにしてもらったこと

b お母さんを困らせたり、泣かせたり、馬鹿にしたり……

責め裁^{さば}いたりしたこと

まず、a bについて、つぎの順序で思い出してみる。

① 就学前

② 小学校低学年

③ 小学校高学年

④ 中学校

その時に、お母さんの姿、言葉、行為をどう思ったか、使った自分の心を思い出していく。

お母さんに、肉体をこの世に出していただいたことをどのように思っているか、どのように思ってきたか、ノートに書き綴^{つづ}ってみる。

（出生前後の家庭、社会の事情を考慮に入れながら書いていきましょう。）

(2) 他力の反省をする

私達人間の最大の誤り^{あやま}は、肉体を自分だと思ったことです。他力信仰も、肉体を自分だと思うところから始まります。肉体を満足させるため、肉的不安を解消するため、私達は神ならぬ神をつくりだし、手を合わせ、祈り、^{おが}拜んできました。その心が他力です。

どうぞ、手を合わせるときの自分の心を見てください。宗教に救いを求めようとする、その心を見てください。「他力の反省」とは、どこかの宗教団体に属したから悪いとか、誰かの本を読んだから悪いというような、そんな形ではなく、そのときの自分の心がどうであるかを見ていくことです。

なぜ、手を合わせるのか。なぜ、その会に入会するのか。そのときの心を見て、その心がどこからくるのかを探っていくのが「他力の反省」と言えるでしょう。

他力の反省ができていなければ、いくら「本当の自分」に心向けようとしても、肉的な満足を与える「間違った神」にしか、私達の心は向いていかないのです。ずっと、私達の心は、そちらのほうにしか向いてこなかったのですから……。

（何度も繰り返しているように、相手を見るのではなく、その教団や指導者に使った自分の心を見ることがポイントです。相手はあくまで自分の心を見るための鏡であり、教材としてとらえてください。）

(他力信仰の反省 参考)

a あなたが入信したことのある教団を思い出してください。

- | | | | | | | | | | |
|----|---------|-----|--------|----|--------|----|-------|----|---------|
| 1 | 阿含宗 | 2 | エホバの証人 | 3 | 円応教 | 4 | 大本教 | 5 | オウム真理教 |
| 6 | 黒住教 | 7 | 幸福の科学 | 8 | 真如苑 | 9 | 慈光院密教 | 10 | 神慈秀明会 |
| 11 | GLA | 12 | 崇教真光 | 13 | 生長の家教団 | 14 | 世界救世教 | | |
| 15 | 創価学会 | 16 | 統一教会 | 17 | 天理教 | 18 | 誠成公倫会 | 19 | 実践倫理宏正会 |
| 20 | 金光教 | 21 | PL教団 | 22 | 白光真宏会 | 23 | 八尊光輪会 | | |
| 24 | 立正佼成会 | 25 | 霊友会 | 26 | モラロジ | 27 | 偕和会 | 28 | ひとのみち |
| 29 | () 不動尊 | 30 | () 稲荷 | 31 | () 観音 | | | | |
| 32 | その他 | () | | | | | | | |

（※各教団の名前を掲^{かか}げてありますが、これらの教団や宗教団体がいいとか悪いという意味ではなく、あくまでも、ご本人がその団体に属していた時の思い、また指導者の方にどんな思いを使っていたかを思い出していたくために、一例として掲げてあります。）

b 入信した動機は何ですか。

- | | | | | |
|-----------------------------|-----------------|-----------------------|--------|---------|
| 1 先祖供養 | 2 因縁解消 | 3 病氣平癒 ^{へいゆ} | 4 商売繁盛 | 5 超能力開発 |
| 6 立身出世 | 7 交通安全 | 8 結婚・夫婦の調和 | 9 悟道 | |
| 10 合格・学業成就 ^{じょうじゆ} | 11 過去世、守護霊を知りたい | | | |

(3) 日々の反省をする

夫(妻)、姑しゅうとめ(嫁)、職場の仲間、友達、……に対して、どんな心を使ってきたか。どんな心を使っているか。

一瞬一瞬に動く心を見ていってください。

This image shows a blank sheet of white paper with horizontal ruling lines. The lines are evenly spaced and run across the width of the page. There are no margins, text, or other markings on the paper.

[illegible]

私たちは、なぜ、生まれてきたのでしょうか？

— Q&A —

初版発行 2018 年 5 月 13 日

編 集	U T A ブック編集部
質問の回答	塩 川 香 世
発 行 者	桐 生 敏 明
発 行	一般社団法人 U T A ブック
	TEL 0745-55-8525 FAX 0745-55-8440
印刷・製本	モリモト印刷株式会社

© UTA-BOOK, Printed in Japan 2018